夕刊 讀賣新聞 【朝夕刊月ぎめ定価4037円（本体価格3738円＋消費税299円）】1部売り朝刊130円・夕刊50円 （第3種郵便物認可）

折り鶴再生 1億羽の祈り

ヒロシマ

文具で平和 身近に

広島を訪れる修学旅行生や市民らが核兵器廃絶や平和への祈りを込め、平和記念公園（広島市中区）の「原爆の子の像」に寄せた折り鶴を文房具などに再利用する取り組みが広がっている。2011年度のスタートから16年末までに再生されたのは1億羽分を超えた。再生品を購入した人々に平和への思いを引き継ぐ橋渡しとしての役割も期待されている。（大槻浩之）

原爆の子の像（左）に供えられた折り鶴（広島市中区の平和記念公園で）＝野本裕人撮影

折り鶴を掲げた少女の姿をした原爆の子の像は、広島で被爆後に白血病になり1955年に12歳で亡くなった佐々木禎子さんがモデルで、58年に設置。禎子さんは回復への願いを込めて病床で鶴を折り続けたことで知られ、広島平和記念資料館でも紹介されている。

修学旅行生らが千羽鶴を持参し像に供えることが多く、市によると、年間1000万羽が集まるという。

かつてはしばらく置かれた後、廃棄されていたが、秋葉忠利・前市長が「膨大な量の折り鶴を見てもらうことで、平和を求める思いの強さを伝えられる」と、2002年から全て保管するよう改め、展示施設の建設構想も打ち出した。

しかし財政事情などで施設は実現しないまま、11年に就任した松井一実・現市長が「折り鶴に託された思いを昇華する」と再利用を目指す方針に転換。同年には市が試行し、12年度から希望する民間事業者への提供を始めた。反響は大きく、12年度は約2600万羽、15年度は約2740万羽が引き取られた。

㊤広島平和記念資料館の来館者に配られている、折り鶴の再生紙の絵はがき ㊦折り鶴を糸から外す障害者施設の通所者と、見守る吉清さん（右）（広島市中区で）

ノートや名刺 264団体・個人利用

提供には、平和を願うメッセージの発信につながるもの、高齢者に生きる力や勇気を与える取り組みなど12の項目を市が挙げており、これらに基づいて審査。

引き取られた折り鶴は10～20％の割合でパルプに配合されて再生紙とし、ノートや名刺、しおり、ボールペンの軸などに生まれ変わっている。米前大統領のオバマ氏が昨年5月、同資料館を視察した際に記帳した用紙や、同年4月に広島であった先進7か国（G7）外相会合でのメモ帳やボールペン、食事の献立表にもこの再生紙が用いられた。

保管されていた鶴は11年度には約1億1020万羽あったが、再利用によって16年末時点で約7300万羽となっている。

オバマ氏が自作の4羽を広島に持参したことから、折り鶴への注目度は高まっている。末定勝実・市被爆体験継承担当課長は、自身も再生紙で作られた名刺を使っており、「名刺交換の時から自然に『平和』を話題にできる。再生紙の製品を使うことで誰もが平和を発信できる」と語る。

㊤オバマ氏が昨年5月、広島平和記念資料館で折り鶴の再生紙に記したメッセージ ㊦先進7か国外相会合で使われたメモ用紙とボールペン

＊

再生のための折り鶴の提供先は15年度末現在で、広島県内外合わせて264団体・個人に上る。

広島平和記念資料館では来館者への記念品として再生紙で作られた絵はがき（3種類）を配布。館内の売店にもこれらの提供先による再生紙の商品が並ぶ。

昨年末までに最も多い約3010万羽を受け取った、デザイン会社社長吉清有三さん（68）らが主宰する一般社団法人「千羽鶴未来プロジェクト」は、広島市など約30か所の福祉事業所で通所者らに折り鶴の選別やつないだ糸を抜く作業、外部で再生紙にした後、ノートやメモ帳、コースターなどにするための作業をしてもらっている。販売は同法人のインターネットサイトでも扱っている。

母親が広島で被爆し、被爆2世でもある吉清さんは「ヒロシマの記憶を身近に伝えるとともに、障害のある人が技術と自信をつけることにも役立っている」と話す。